

1 目的

入学する生徒の動機も多様であり、農業への関心度も差がある。また、在籍生徒数が減少傾向であり、進路も多様で就農ならびに農業関連産業への進路へつなげられない生徒も多い。

農業への関心、および農業関係への進学・就職率を向上させるために、先進農家や関係機関、施設の見学や視察を充実させ、農業に対する考え方や専門的な知識・技術を学ぶとともに農産物の流通の仕組みや生産の喜びを直接聞くことで、農業への興味・関心を引き出す。

生産物の販売会は、自分たちで栽培・飼育管理およびプロジェクト学習で学び生産されたものを販売することには、商品のPRや商品の説明と接客技術が必要になってくる。そのためにも販売会へ積極的な参加も進める。

2 実施状況

(1) 生産物販売会の実施

校内の販売会は、11月に文化祭、3月に感謝祭を行い、毎週月・木にアンテナショップ販売会を行ってきた。

校外や地域との連携では、ドルフィンポートの青春市場や南さつま市の砂の祭典での販売会等、多くの販売会に参加した。

販売会では、加世田常潤高校の紹介はもちろん、製品や製造方法等の説明を行い、接客技術の習得等も意識させた。初めは、慣れない販売についても多くの販売会を経験し、向上することが出来た。



(砂の祭典での販売)

(2) 講演会の実施

白石いづみさんが「神様からのプレゼント～白血病が教えてくれたこと～」ということで講演劇を実施した。

加世田常潤高校は生産物を扱ったり、人の命を預かったりする実習等もあるので、命の授業を通して、自分たちが行っていることを大切にする意識がさらに高まったみたいである。

生産物を心を込めて作ったり、人と接するとき思いやりの気持ちを持ったりするようになってきた。



(命の授業：白石さんの講演劇)

(3) 先進地視察研修の実施

有機生産科は農業大学校と黒川農園、内牧場を視察した。先進農家・施設を視察することで、自分たちの実習に対する意欲、農業への興味・関心がさらに高まったみたいです。

また、農業大学校の施設・設備を見て自分も進学し、将来は農業関係に進みたいと思った生徒も出てきた。



(視察研修・農業大学校)

3 今後の課題、取組

上記の事業を行ってきたが、まだまだ成長途上であるので、今後も生産物販売会を実施するとともに講演会、先進地視察研修等を実施し、農業への興味・関心を引き出したり、接客技術の習得や多面的な見方を育成するために、積極的な活動を行っていきたい。